

令和4年度南信州地域計画の取組実績について

～豊かさあふれる南信州農業！ 農から始まる新しい交流文化～

資料 1

■ 達成指標の進捗状況

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	2022年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	28人	28人	18人	28人
	Iターン就農者数(単年度)	5人	5人	7人	5人
2	柿の栽培面積	517ha	542ha	530ha	542ha
	ぶどう無核大粒品種の栽培面積	21.8ha	55ha	57.7ha	55ha
3	きゅうり・アスパラガス施設面積	32ha	37ha	37.6ha	37ha
	白ねぎ等新品目栽培面積	23ha	36ha	39.5ha	36ha
	信州プレミアム牛肉認定頭数	694頭/年	765頭/年	940頭/年	765頭/年
4	伝統野菜認定数	11種類	15種類	15種類	15種類
	6次産業化総合化事業計画達成件数	1件	4件	4件	4件
5	都市農村交流人口(単年度)	193,755人	213,900人	38,882人 (2021年)	213,900人
	販売金額1億円以上の農産物直売所数	7か所	8か所	9か所	8か所
6	計画期間中に整備する重要な農業水利施設の整備箇所数	—	6か所	7か所	6か所
	多面的機能及び中山間直接支払取組面積	2,751ha	2,993ha	2,613ha	2,993ha

重点取組1：南信州農業の次代を担う人材の確保・育成

○ 県、市町村、JAと連携し相談活動や研修事業等の充実による担い手確保の強化

- ・ 市町村・JAと連携した相談活動の実施(延べ37回)
- ・ スキルアップセミナーの開催(基礎講座5回、専門講座3回、参加者延べ63人)
- ・ 新規就農者育成総合対策により、就農への準備や経営開始を支援(就農準備資金：4人、経営開始資金：単身44人・夫婦3組)



○ 各種セミナー、研修会による新規就農者や中核的経営体の資質向上 【スキルアップセミナー 農業機械講座】

- ・ 農家の経営方針に沿って、専門家を交えた個別の伴走支援活動(対象18経営体)
- ・ 4S(整理、整頓、清掃、清潔)の実践、作業工程の見直しといった「カイゼン」の手法を活用した経営改善研修会の開催(1回)

○ 婦農塾等によるUIターンを含む定年婦農者への支援の充実

- ・ 他産業従事後農業経営を開始する者等を対象にした婦農塾の開催(基礎講座6回、専門講座5コース(柿、りんご、きゅうり、トマト、アスパラガス)各5回 合計30回、受講者55人)

重点取組2：新技術や新品種拡大による競争力の強い果樹産地づくり

○ りんごの県オリジナル品種の戦略的拡大

- ・ シナノリップの適期収穫のための熟度調査の実施(7～8月5回)



【日本なしの樹体ジョイント仕立て栽培】

○ 市田柿の生産拡大の推進

- ・ 早採りによる「もどり」の発生防止のため、熟度調査（6回）に基づく適期収穫の徹底
- ・ 南信農業試験場と連携した市田柿の摘蕾技術を検討（8回）
- ・ 市田柿ブランド推進協議会等と連携し、生産量確保のための園地継承等の検討、栽培・加工技術研修会等の開催（2回、参加者 223 人）、JA 市田柿コンクール（39 点出品）への協力

○ りんご新しい化栽培やなしジョイント仕立て栽培など省力化と生産性向上の推進

- ・ りんご新しい化栽培の導入推進及びフェザー苗木の生育状況の巡回指導の実施（4回）
- ・ 改・新植による日本なし産地の生産力向上となし樹体ジョイント仕立て栽培による早期成園化・優良園地育成のため、重点農家の巡回指導（7ほ場）及び検討会の開催（4回、参加者 132 名）
- ・ なしの紋羽病簡易診断法の周知用チラシの作成（1,000 部）と現地研修会の開催（6回、参加者 128 名）、調査の実施（21 ほ場）、白紋羽病再発防止技術の検討（1 ほ場）

○ シャインマスカットやナガノパープル等無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化

- ・ 早期成園化に向けた指導会の開催（3回、参加者 65 名）
- ・ 新品種「クイーンルージュ®」の生産拡大のため検討会の開催（1回、参加者 22 名）及びモデルほ場の熟度調査の実施（1 か所、6回）

重点取組 3：マーケットインの複合産地の構築

○ きゅうり・アスパラガスの施設化の推進

- ・ きゅうり新規栽培者等を対象とした研修会等を通じた施設化の推進（3回）
- ・ 環境モニタリングシステムの活用による増収及び養液栽培導入による連作障害回避等の啓発活動の実施（3回）
- ・ 補助事業を活用した施設化の推進（1.5ha、39 戸）

○ 白ねぎ等新品目の作付推進

- ・ 白ねぎの 2 月定植、7 月収穫を目指した実証ほの設置（1 か所）

○ ダリア等 200 種類以上の多品目花き生産への支援

- ・ 日持ち性の良いダリア新品種の地域適応性の検討（9 か所）
- ・ ホオズキの商品性向上に向けた肥培管理の検討（2 か所）

○ 県内一の茶産地の維持

- ・ 指導内容の見直しと栽培管理講習会の開催（3回、12 会場）
- ・ 一番茶収穫後のチャ炭疽病防除適期調査を実施（2 か所）

○ 需要に即したきのこ生産

- ・ キノコバエ類の発消長調査の実施（3 か所）
- ・ 異物混入の解消に向けた歩行性害虫の侵入防止対策の評価と更なる改善を支援（1 経営体）
- ・ 安定生産に向けた後継者育成のための講習会の開催（2回）

○ 信州プレミアム牛肉・銘柄豚など畜産物の生産拡大

- ・ 衛生管理のレベルアップに向け、巡回指導と農場 HACCP の啓発を継続実施（プレミアム牛認定頭数 940 頭、41 経営体）
- ・ 飼養衛生管理基準の周知等による家畜防疫対策の徹底（肉牛農家 93 戸、養豚農家 13 戸、養鶏農家 14 戸）

○ ICT 等新技術の導入検討

- ・ 農業用ドローンを利用した水稻の斑点米カメムシ類等の集団防除への取組を支援（4 か所）
- ・ リモコン草刈り機等の現地実演会の開催（3回）
- ・ きゅうりハウス内の環境モニタリングシステムのお試し導入を支援（1 経営体）



【農業用ドローンによる水稻防除】

重点取組 4：稼ぐ農業ビジネスに向けた高付加価値化の推進

○ シードルなど新たな地域特産品の開発の推進と消費の拡大

- ・ シードルの支援方針について情報交換の実施（1回、4事業者）
- ・ シードル原料の低コスト生産技術の実証や農業経営モデルの改定案の作成

○ 輸出を志向する取組や認証取得等高付加価値販売を目指す取組への支援

- ・ 輸出果実（なし、りんご）の検疫に係る施設登録申請手続、選果技術員研修の支援（2選果場）
- ・ 市田柿輸出の補助事業実施後のアフターフォロー（1団体、輸出先国（アジア、欧州、米国））
- ・ 市田柿の商標 GI 管理委員会店舗検査への協力（3日）
- ・ GAP 手法の周知及び支援と GAP 認証取得希望者の個別支援（2経営体）
- ・ 信州の環境にやさしい農産物の認証取得の推進（認証取得件数 53 件）及び実践者の技術支援



【農家とシェフの情報交換】

○ 伝統野菜をはじめとした地元食材の食べ方提案等による消費誘導

- ・ 伝統野菜の認知度向上のための伝統野菜フェア・スタンプラリーを実施（参加飲食店 3 店舗）
- ・ 伝統野菜千代ネギの産地見学会での取組事例の発表などを支援（南信州地産地消推進協議会主催、1回）、伝統野菜フェア等の開催による伝統野菜の新しい食べ方の提案（2回）
- ・ 伝統野菜のなす（3品種）の食味分析とその結果報告（2回）及び活用に関する研修会を開催（1回）
- ・ 地元食材の多様な取引形態の形成～生産グループの新たな取組による活性化、活動継続を支援（1回）
- ・ 県外イベントでの市田柿 PR チラシ、レシピブックを配布（2回）
- ・ 市田柿ブランド推進協議会、農村女性団体協議会と連携し、小学校へのおやつ作り出前教室を開催（1回）

○ 食品産業との連携への支援

- ・ 農産物及び農産物加工品の食品企業等へのマッチングを推進（8件）
- ・ 日本なしを使用した菓子等商品開発の提案と商品化を支援（商品化 7 事業者、6 商品）
- ・ 6次産業化認定事業者（2業者）へのフォローアップ調査の実施
- ・ しあわせ商談サイト NAGANO の農業委員等への紹介、登録誘導及び新たな生活スタイルに合ったマッチングの推進（3件）

重点取組 5：食育の推進と交流を通じた地消地産の拡大

○ 小学生や未就学児との農業体験会の開催など教育現場との協働による食育の強化

- ・ 小中学生を対象にした市田柿の食育事業（おやつ作り 1 校）の取組や、大豆「つぶほまれ」の栽培を通じた食育活動を支援
- ・ 未就学児を対象とした阿智村「まめっこ応援団」の活動（大豆栽培）を支援

○ 直売所の品揃え強化・ネットワーク化等による消費誘導

- ・ 直売所アドバイザーの派遣による品揃えの強化等に向けた検討会の開催（5回）

○ 市田柿など地域特産品のレシピ開発や料理講座等への支援

- ・ 市田柿の消費宣伝リーフレットの配布（2回）



【大豆「つぶほまれ」栽培による食育活動】

- ・ 市田柿活性化推進協議会との連携により「ICHIDAKAKI Recipe book」の作成配布や市田柿 PR 動画の作成公表を支援

- ・ 一般消費者を対象とした地元の旬の野菜や伝統野菜を活用するためのワークショップの開催（2回）
- ・ 生産者による地域特産品等の生産情報及びシェフによる料理にかける思いなどのプレゼンとあわせた食事会を通じた情報発信と活用方法の提案（2回）
- **交流人口増加を見据えた地元農畜産物のPRと「観光＋農業」の推進**
 - ・ 農業体験宿泊等の受入経験の浅い農家民宿や新規開業希望者を対象とした個別支援
 - ・ 管内飲食店グループと取引する生産グループを対象に、需要に応じた適正生産及び品質安定に向けた栽培技術指導、流通方法を検討（14回）
 - ・ 飲食店等における伝統野菜等地元農産物の利用促進をねらい、管内飲食店グループと連携した伝統野菜等地元農産物を活用したメニューの提供を支援（1回）
 - ・ マスメディアへの地消地産紹介企画の提案、食材データベース及びレシピ Book の活用による情報を発信（3回）
 - ・ 南信州地産地消推進協議会の活動を支援（8回）

重点取組6：農を基軸とした多様で豊かな地域づくり

- **農業体験型研修の充実による移住・定住者の支援**
 - ・ 移住後間もない者等を対象とした農ある暮らし入門研修の開催（3回、受講者5人）
- **企業法人等による荒廃農地の活用や農地中間管理事業等の活用による農用地活用の最適化の推進**
 - ・ 中心経営体の経営発展を支援（経営開始支援44人・3組・10市町村、経営発展支援18経営体・6市町村）
 - ・ 樹園地を含む担い手のいない農地を、次の担い手に継承するまでの中間管理を行う法人設立を検討（検討会5回）
 - ・ ニホンザルを対象とした長野式電気柵（3市町村）及びハクビシンを対象とした電気柵（2町村）の展示ほ場設置並びに設置講習会の開催（5回）
 - ・ 鳥獣被害防止総合対策交付金により被害防止対策活動を支援（3市村）
- **農村の持つ多面的機能の維持や小水力発電など地域資源の活用促進**
 - ・ 多面的機能支払交付金を活用し、農業生産基盤等の維持活動の支援（12市町村1,750ha）
 - ・ 中山間地域等直接支払交付金を活用し、農用地保全の取組を推進（14市町村863ha）
- **農業用施設の長寿命化及び農村の防災対策の推進**
 - ・ 計画期間中に整備する6か所のうち、令和3年度までに5か所で水路補修工事を完了、また、計画期間内に新たに補修が必要となった施設2箇所について対策工事を実施



【ハクビシン対策の電気柵設置講習会】